

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生の育成
 「生徒行動指針」○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|--|
| ○学校像 | 今年度生徒に発するメッセージは、『未知のことにも果敢に挑戦しよう!』とした。そのために、『自己効力感』をキーワードとして授業をはじめとした全ての教育活動を実践する。「自己効力感」とは、「自分ならできると信じる」感情である。いわゆる「自信」である。人間は誰も未知のことには不安を抱くものである。そのようなときでも「大丈夫だ、できるはずだ」と考え、行動につながられる生徒の育成を目指す。 |
| ○児童・生徒像 | 失敗を恐れずに何事にも挑戦し、「学び」を日常の生活と結びつけ、自信をもって未知の世界にも歩み出せる生徒 <「生徒行動指針」に基づいた具体的な生徒像> ○習得した知識を実生活に生かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を学級や学年・家族や地域のために進んで役立てようとする生徒 ○病気に負けない、心身ともに健やかな体を身に付けた生徒 |
| ○教師像 | ○生徒・保護者、地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導くことのできる豊かな人間性をもった教師 ○組織として迅速に動くことができる教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- 1) 生徒は元気に挨拶ができ、授業態度も良く落ち着いた学校生活を送っている。
- 2) 学校が楽しい、授業が楽しいと思っている生徒が多く、授業に真剣に取り組んでいる。
- 3) 学校行事に際して、自らの役割を意識した取り組みができており、行事後の達成感も高い。
- 4) 未知の事柄に一步を踏み出す勇気がない。

2 前年度の成果

- 1) 学習に課題のある生徒に対する補習の場として、「キャッチアップルーム」を設け、対象生徒の学習意欲を高めることができた。
- 2) 「スマイルルーム」と「キャッチアップルーム」の運用についてのシステムを構築し、不登校対応と予防に対する体制が整った。
- 3) 「サタデースクール」を、コロナ禍以前の形に近い形で実施できた。
- 4) 指導力向上中核校の研究で教員の授業改善への意識が高まった。

3 前年度の課題

- 1) 区学力調査における3科平均正答率が63.9%から61.0%に減少した。
- 2) 予定していた学習支援ボランティアが確保できず、放課後補習をはじめとした学習支援が十分機能しなかった。
- 3) 生徒の変容を客観的に計る指標を構築し、実効性のある検証を行う必要がある。

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
|---|--------------|---------------|----|----|----|----|
| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| 2 | キャリア教育の推進 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 3 | 不登校・不適応対応 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 4 | 生活指導の充実 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

5 令和5年度の重点目標

| | |
|-------------------|--------------|
| 重点的な取組事項－1 | 学力向上アクションプラン |
|-------------------|--------------|

| A 今年度の成果目標 | 達成基準 (目標正答率) | 実施結果 (正答率結果) | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
|----------------------|----------------------|---------------------------|------------------------------|-------------|
| 基礎学力の確かな定着と家庭学習の質的向上 | 令和5年度の目標正答率3科平均61.0% | 到達度確認テストにおける3科平均正答率 53.9% | 学習コンテストの結果は良いが、知識の定着に至っていない。 | △ |

B 目標実現に向けた取組み

| 新・継 | アクションプラン | 対象学年 実施教科 | 頻度・ 実施時期 | 具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認 方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
|---------|--------------|----------------|-------------|--|-----------------|--|----------------------------------|---|-------------|
| 1 継続 | 補充・補習 の充実 | 国語 数学 英語 | 通年 | 【取組内容】 ・4月に実施した学力調査の正答率の低い単元においてA Iドリルを活用して定着を図る。 ・学年全体として習熟の低い単元では、授業を通して学び直しを行う。 ・放課後補習の年間指導計画を立て、意図的計画的に補習を行う。 【ねらい】 ・入試に耐えうる基礎基本の定着 | 2月に実施する到達度確認テスト | 各教科とも4月の正答率 国語70.7% 数学57.1% 英語63.2% | 国語 71.5% 数学 39.5% 英語 50.7% | 到達度確認テストの結果、数学と英語においてかなり低い結果となった。これは生徒個人の問題ではなく、教師が指導方法の見直しを迫られていることに他ならない。学校として組織的に授業改善に取り組んでいく。 | ● |

| | | | | | | | | | |
|---------|--------------|----------------|------------|---|---|---|--|---|---|
| 2 継続 | 授業改善 | 全教科 | 通年 | <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業展開を全教科等で統一し、導入5分、展開35分、まとめ10分とし、単元を貫く学習目標を意識して、足立スタンダードに基づく授業を実践する。 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間1時間の授業で生徒が身に付けるべきことを明確にすることで、学習内容の確実な定着を図る。 | 区学力調査の「学習や生活についてのアンケート」とWebQUの「学校生活意欲尺度」の設問NO.7 | 『授業が楽しい』の設問に対する肯定的回答90%以上 『授業がわかる』の設問に対する肯定的な回答70%以上 | 『授業が楽しい』の肯定群 87.2% 『授業がわかる』の肯定群 77.9% | 学校や授業が楽しいと感じる生徒が9割弱いるという結果をどう受け止めるか。区学力調査の結果を見ると基礎基本の定着には課題がある。真の学びの楽しさを追求できるような授業改善を強く進めていく。 | ○ |
| 3 継続 | 学習コンテスト | 国語 数学 英語 | 各教科 年1回 | <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国数英3教科で基本的な知識を問う問題に取り組ませる。 各コンテスト前に取り組み週間を設け、AIドリルも活用する。 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の喚起 | 3教科の学習コンテスト | 各教科の合格率 国語90% 数学80% 英語80% | 国語 94.0% 数学 82.9% 英語 84.1% | 結果的には目標を達成している。不合格者にAIドリルを活用した補習や家庭での取り組みを行い、学力の定着を目指す。 | ○ |
| 4 継続 | サタデー スクール | 全教科 | 通年 | <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土曜授業のない土曜日に自学自習による補習 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自学自習の習慣を身に付けることで家庭学習の習慣化を補完する。 開かれた学校づくり協議会の支援者や学生ボランティアに気安く質問できることで、家庭学習の質的向上を促す。 | サタデースクール参加登録者数と出席状況 | 登録生徒数 35名以上 年間延べ参加人数 350人以上 | 登録生徒数 29名 年間延べ参加人数 延べ468名 (2月3日現在) | 5月27日から3月9日まで、夏休み4回を含め、29回実施できた。6月3日のみ台風接近により中止。 志型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで参加者も増え、参加率も上がっている。 | ○ |

| 重点的な取組事項－２ | | キャリア教育の推進 | | | |
|--|--|--|---|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 昨年度に引き続き、生徒の自己有用感の涵養を図るとともに、自己効力感の涵養を図り、自信をもって生活できる生徒を育成する | | 区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」と WebQ U の設問 NO. 8、NO. 16、NO. 21～23 で肯定的な回答及び G S E S（一般性セルフ・エフィカシー尺度） | 取り組みの3のとおり | 自己効力感の涵養について、予想以上に達成できていなかった。生徒の成功体験を増やしていく。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 自己有用感の涵養 | 区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」において、『今の学級をよりよい学級にしたいと思う』と『学級のみんなはお互いに協力し助け合っていた』の設問に対する肯定的な回答が、どちらも85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 中学生という発達段階に応じた係活動を意図的に取り組ませたり、学校行事の運営を通して集団における自己の役割を自覚させる。 学級活動を中心とした特別活動を通して、生徒相互の良さを認める活動を充実させる。 | 『今の学級をよりよい学級にしたいと思う』の肯定的回答 93.3% 『学級のみんなはお互いに協力し助け合っていた』の肯定的回答 91.8% | いずれも9割以上の生徒が肯定的な回答を示し、目標は達成した。 | ◎ |
| 将来への希望 | 区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」の『将来の夢がある』の設問に対する肯定的な回答が73%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 全教育活動において、キャリア発達を促す教育の実践 | 『将来の夢がある』の肯定的回答 67.8% | この5年間、将来の夢を持っている生徒が全体の3分の2である傾向は変わらない。学年によるばらつきが見られ、学校として共通認識の元で教育実践を行うことを一層強めていかなければならない。また、生徒の夢は往々にして大人に否定されることが多いので保護者への啓発も図っていく。 | △ |

| | | | | | |
|-----------------|--|---|---|--|----------|
| <p>自己効力感の涵養</p> | <p>WebQUの学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問No. 8、16、21、22、23の肯定的な回答がいずれも75%以上</p> <p>GSES 夢デザインシートの活用</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各教科も含めた全教育活動の年間指導計画を「キャリア」の視点から再編する。 作成した年間指導計画は各学年の廊下に掲示し生徒に可視化する。 十二中で目指すキャリア目標を各教室に掲示し生徒に意識化を図る。 | <p>No8『学習内容を深く理解するため自分の学習方法がある』の肯定的回答 55.2%</p> <p>No16『自分もクラスの活動に貢献していると思う』の肯定的回答 63.7%</p> <p>No21『勉強や運動、特技や面白さで友人から認められている』の肯定的回答 67.1%</p> <p>No22『私はクラスの中で存在感があると思う』の肯定的回答 53.7%</p> <p>No23『自分を頼りにしてくれる友人がいる』の肯定的回答 69.9%</p> | <p>予想以上に低い結果である。本校生徒の自信のなさが如実に表れた感がある。</p> <p>独自の学習方法については授業を通して意図的・計画的に指導していく。しかし、これは教師により教え込むことではないので、生徒自らが学びの工夫ができるような発問をいかにするかを学校として考え実践していく。</p> <p>他4つの設問については、特別活動において培われる部分が大きい。生徒同士の学び合いを取り入れる等、教科の授業内でも自分の存在を実感できるよう工夫する。また、苦手なことを卑下せず、互いの得意を分かち合える雰囲気作りを行い、生徒の成功体験を増やしていく。</p> <p>GSESについては、費用的な面も含め導入が困難であることが判明したため、実施には至らなかった。</p> | <p>●</p> |
|-----------------|--|---|---|--|----------|

| 重点的な取組事項－3 | | 不登校・不適応対応 | | | |
|--------------------------|-----------------------------------|---|---|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 不登校出現率の減少 | | 不登校出現率 3%以下 | 不登校出現率 3.1% | 特別支援教育推進委員会を中心とした不登校対策が円滑に機能し、成果を上げている。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気づくり | WebQUにおける学級満足度50%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 学級活動、道徳科の指導を通して、学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級、学年で生徒の活躍の場を設定し相互に認め会える雰囲気を醸成する。 | WebQUにおける『学級満足度』 45.5% | 学年が抱えている課題が如実に現れている。これまで以上に共通認識・共通実践を行っていく。 | △ |
| 学習に困難さを抱える生徒の支援 | WebQUにおける『学習意欲』に関する設問の肯定的な回答60%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 「キャッチアップルーム」での個別支援を通して、学習に課題のある生徒の学習意欲を喚起する。 学級活動を通して生徒が相互に学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。 | WebQUにおける『学習意欲』に関する設問のうち「学校の勉強には自分から進んで取り組む」の肯定的回答の割合 1年 59.8% 2年 55.8% 3年 71.0% | 2年が一番低く、3年が一番高いことは、2学年が学校にも慣れ目標を持ちづらいことをあらわしている。キャッチアップルームも軌道に乗ってきており個に応じた学習支援を充実させていく | △ |
| 組織的な対応 | 特別支援教育推進委員会 年35回開催 | <ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日の2時限目に特別支援教育推進委員会を設定し、不登校、不適応生徒の情報を共有し、支援を必要とする生徒を全校で組織的に支援する。 特別支援教育推進委員会に地元の民生児童委員に加わっていただき、養育困難家庭の支援を行う。 | 開催回数 29回 別途ケース会議を開催 | 今年度は、木曜日に宿泊行事や校外学習があたっており、回数としては目標値に達していないが、個々重大な案件はそれぞれ関係機関を交えてケース会議を行った。 | ◎ |

| 重点的な取組事項－４ | | 生活指導の充実 | | | |
|-------------------------------------|--|---|---|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 生徒の内面からの変容を促し、自ら学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む | | WebQU、ふれあい月間のアンケートにおけるいじめ発生件数 | いじめ認知件数 7件 | いじめの認知件数は、1年間で7件あり、その全ては解消した。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| いじめの早期発見・対応 | <ul style="list-style-type: none"> WebQUにおける侵害行為認知群10%以下 学級不満足群15%以下 | <ul style="list-style-type: none"> WebQUを活用し、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止対策委員会」を中心に、全校で組織的にその解決にあたる。 生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。 | WebQUにおける 『侵害行為認知群』 1年 23.4% 2年 15.8% 3年 9.3% 『学級不満足群』 1年 27.3% 2年 18.3% 3年 16.8% | いじめの発生件数が突出して多いというわけではないが、1・2年生に学級での居づらさを感じている生徒が増えている。学級活動の一層の充実を図り、よりよい人間関係の構築を図り、教科の授業でも臆することなく発言できる環境を整える。 | ● |
| 体罰の根絶 | 体罰発生件数0 | <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて教職員の服務に関する研修を繰り返し、生徒の内面にとどく指導ができるようにする。そのために必要な研修を意図的計画的に実施する。 WebQUについての研修を実施し、正しく分析し、適正に活用できる力を全教員に身に付けさせる。 | 体罰発生件数 0 | 体罰事案は、私が校長に着任以来5年間発生していない。 引き続き生徒の人権に配慮した適切な指導に当たるよう指導していく。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【課題】(年度末の到達度調査から)

- ・1年生では、国語の正答率が76.2%、71.1%、数学の正答率が40.9%、52.6%、英語の正答率は53.3%、48.8%であった。
- ・2年生では、国語の正答率が73.1%、72.0%、数学の正答率が38.0%、47.4%、英語の正答率が48.0%、50.5%であった。
- ・1年生の国語で5.1ポイント、英語で45.5ポイント、2年生の国語で1.1ポイント昨年度より上昇が見られたが、全体として基礎学力の定着が十分とは言いがたい。特に数学の正答率が低く、無答率も高い。抜本的な授業改善を進め、学習単位ごとの検証を行いながら学習を進めていく必要がある。

【解決の方向性】

- ・いずれの学年、いずれの教科においても、区の学力調査や全国の調査の分析を徹底し、習熟が不十分な単元は授業で、習熟が遅れている生徒には放課後補習(JUT)とキャッチアップルームでの抜き取り指導による学び直しを確実にを行い、授業を通して学習した知識の活用方法についても生徒に身に付けさせる。
- ・『キャリア教育』の視点に立った学習指導を徹底する。また、各学年の全教育活動の年間指導計画を可視化を図り、生徒に何を学ぶのかを明確に意識させる。
- ・放課後補習(JUT)は、進路指導部を中心に組織で対応し、全教員が中心となって生徒個々人の習熟の程度にあわせたカリキュラムを考え、指導する。学生ボランティアを有効に活用する。

【総括】

本校の多くの生徒は、「授業がわかる」、「授業が楽しい」と感じている。一方で到達度調査を見ると学習の定着が十分であるとは言い難い。このことは、必ずしも基礎基本の定着が図れていないのではなく、学習した知識を活用する力が低く、得点力につながっていないものとする。その証として「授業がわかる」と回答している生徒の割合は高い。知識を道具として使いこなせるスキルを高める指導にも力を入れていきたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、『今の学級をよりよい学級にしたいと思う』と『学級のみならずお互いに協力し助け合っていた』の肯定的回答がともに9割を超えています。一方で、自己効力感については7割弱とけして高い数値ではありません。令和6年度は、教科指導における学び合いの場を増やし、その中で自信をつかみ、学習の成果につながるよう、教職員一同、更なる授業改善や個別指導に努めてまいります。

(3) その他(学校教育活動全般について)

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、多くの学校行事をコロナ以前の携帯に戻した。その中で、3年生があらゆる行事において素晴らしい勇姿を見せてくれた。このことは下級生に良い影響を与え、生徒の経験値を高めることにつながった。

令和6年度も「キャリア教育」の視点に立って全ての教育活動、特に学級活動の充実を図り、変化の激しい社会を生き抜く力を生徒に身に付けるべく、全教員で授業改善に取り組み学級を生徒にとって居心地が良く安心して学べる場にするよう心がけていく。地域においても本校生徒を温かく見守り育てていただきたい。